

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2008年3月16日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	ケアホーム 田海園 (鹿児島県)
-------------------	-----------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 石松 成子
	氏名 熊原 嘉昭
事業所側対応者	職名 代表理事 ・ 管理者
	氏名 麻生 昭人 ・ 徳丸 栄子
	ヒアリングを行った職員数 3名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県第4670200593号		
法人名	川薩福祉企業組合		
事業所名	ケアホーム 田海園		
所在地	薩摩川内市城上町9750番地7 (電話) 0996-21-9338		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年3月16日	評価確定日	平成20年3月30日

【情報提供票より】(平成20年 3月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 28 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要 (3月 5日現在)

利用者人数	8名	男性 0名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	5名
要介護3	2名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86.1歳	最低 78歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山クリニック・瀬口歯科医院・Kメンタルクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、川薩地区の福祉企業組合を立ち上げ地域福祉のサービス向上に努めている。職員には資格取得も積極的に勧め、働く環境づくりも考慮し、職員を育てる取り組みを行っている。職員は理念の『目配り・気配り・思いやり』を実践しており、入居者がその人らしく暮らし続けられることを支援している。医療機関や訪問看護ステーションとの連携もとれ、入居者・家族は安心して生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時の対応については、協力病院や訪問看護師との連携・ホーム内の勉強会など実施し、改善に取り組んでいる。地域住民や市担当者との関係は、運営推進会議をとおして関係作りが図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者は評価の意義を理解し、職員に説明すると共に、評価を活かしてサービスの向上・改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に家族や地域住民代表を交え、ホームの状況やサービスの実態を報告している。参加メンバーをとおして、地域の理解や支援を得るために、多くの意見や要望を引き出しサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	説明文書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明したり、苦情箱を設置している。運営推進会議に家族の代表の参加もあり、意見を反映させる体制をとっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設については地域の協力が有り、自治会にも加入し、ホーム便りを地域公民館にも配布するなどしている。中学生のボランティアを受け入れたり、地域のスーパーに買い物に行くなど地域の人と交流がある。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松 成子 / 調査員 熊原嘉昭

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からグループの理念をホームのサービスの理念とし、目標を決めて実践しているが、地域密着型サービスとしての理念を取り込むに至っていない。		地域密着型サービスとしての理念を取り込むことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時からのわかりやすい理念で、ホームの見やすい場所に明示してある。管理者・職員は理念を理解し、共有して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設について地域の協力があり、自治会に加入し、ホーム便りを地域公民館に配布するなどしている。中学生のボランティアを受け入れたり地域のスーパーに買い物に行くなど地域の人との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は評価の意義を理解し、職員に説明すると共に、評価を活かしてサービスの向上・改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に家族や地域住民代表を交え、ホームの状況やサービスの実際を報告している。参加メンバーを通して、地域の理解や支援を得るために、多くの意見や要望を引き出しサービスの向上に活かそうと取り組んでいる。		

ケアホーム 田海園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護や家族のいない利用者のことなど一緒に解決を図る必要が多く、市担当者とは関係作りを積極的に行っている。運営推進会議にも参加してもらい考え方や実態を共有している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や、年1回の家族会、季節ごとの写真入の園便りを送付し、利用者の暮らしぶりなど、わかりやすく報告している。金銭管理は請求書送付時に報告し、健康状態は電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明したり、苦情箱も設置している。運営推進会議に家族の代表の参加もあり、意見を反映させる体制をとっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員がケアすることの重要性を認識し、グループ内の異動を最小限に抑えている。代わる場合は、職員の力量や状況を見て勤務体制や人員配置に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	老人施設協会の研修は計画的に参加し、職員会議で報告し全職員で共有している。グループ内や市の連絡会の勉強会など積極的に参加している。資格取得をすすめ、職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会に参加し、勉強会を行い同業者と交流している。福祉企業組合を通じて、地域福祉のサービスの質向上に積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得してサービスを利用するように必ず見学を勧め、関係者からの情報収集に努めている。入居希望者には、グループ内のデイサービス利用者などが多く、職員や他の利用者との馴染みの関係を作りやすい状況となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを管理者・職員が共有しており、そば打ちやお菓子作りなど得意な事を教えてもらい、感謝の言葉を掛けるなど、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族や関係者からの情報収集や、日々のかかわりの中で思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や主治医・訪問看護師等の意見を聴き、カンファレンスで職員の意見を参考にして、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じてモニタリングをして、計画の見直しをしている。家族の希望や状態変化があった場合は、主治医の意見等もらい随時見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時の送迎や介助・墓参りの支援・外出や外泊時の情報提供・24時間の医療連携体制があるなど、本人や家族の状況に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は本人・家族の希望するかかりつけ医を受診し、病状や状態によっては家族と相談し、症状に合った医療機関の受診を支援している。受診後の報告も連携が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けてのマニュアルを作成し、本人・家族と入居時や状態変化時に話して合っている。協力病院の夜間往診や医療連携体制があり本人・家族も安心している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員は入居者一人ひとりを理解し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、思いやりのある言葉かけや対応など実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大まかに決めているが、起床や就寝・食事時間など入居者のペースを尊重した支援をしている。		

ケアホーム 田海園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや片付けなど一緒に取り組み、食事を共に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は希望や習慣として午後に設定しているが、希望者には毎日入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の方は、タイミングや声かけを工夫し、清潔保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできそうな事を係として廊下のボードに記入し、それを見た入居者が自発的に役割を持ってもらうよう支援している。行事や日常の様子をビデオに撮り、喜ばれている。月に1回「喫茶店」の雰囲気ですて器を普段と替えて好みの飲み物を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により散歩や買い物など支援し、ドライブや季節の花見・ソーメン流し・地域の市など出かける機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけるケアの弊害を理解し、理念の目配り・気配りに気をつけ鍵をかけないケアを実践している。入居者の状況を把握し、外に出られた時はさりげなく一緒に散歩したりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と協力し、避難訓練や消火訓練を実施している。職員が近隣に居住し、地域の防災重点地域として地域住民の協力も得られる体制がある。災害に備え自家発電や備品類も準備している。		

ケアホーム 田海園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	グループの栄養士が作成した栄養バランスに配慮した献立にそって個々の状態に合わせて調理し、残食量も確認している。水分摂取は自由に飲めるよう準備し、水分摂取は気を付けて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルやソファが居心地よく配置され、廊下やトイレは広く使いやすい。台所は対面式で入居者の様子を見たり、声をかけながら調理や片付けができ、家庭的な雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団は家族と相談し、ホームの方で提供している。居室には自分の作品や家族の写真・お気に入りの人形など飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。